

Searching PAJ

1/1 ページ

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN(11)Publication number : **2002-128636**(43)Date of publication of application : **09.05.2002**

(51)Int.Cl.

A61K 7/00(21)Application number : **2000-322128** (71)Applicant : **POLA CHEM IND INC**(22)Date of filing : **23.10.2000** (72)Inventor : **YAMADA TAKASHI****(54) PACK COSMETIC EASY TO REMOVE****(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a pack cosmetic easy to remove after used.
SOLUTION: This pack cosmetic is formed by including (1) a composition containing a water-soluble salt of alginic acid and used for applying to the skin and (2) a composition containing a water-soluble salt of an alkaline earth metal and used for curing the composition in (1) for applying to the skin as ingredients.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(2)

特開2002-128636

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1) アルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物と2) アルカリ土類金属の水可溶性塩を含有する、前記皮膚塗布用の組成物を硬化させる為の組成物とを構成要素とすることを特徴とする、バック化粧品。

【請求項2】 アルギン酸の水可溶性塩が、アルギン酸ナトリウム及び/又はアルギン酸カリウムであることを特徴とする、請求項1に記載のバック化粧品。

【請求項3】 アルカリ土類金属の水可溶性塩が、塩化カルシウムであることを特徴とする、請求項1又は2に記載のバック化粧品。

【請求項4】 皮膚塗布用の組成物が、クリーム状、マッド状、ジェル状又は乳液状であることを特徴とする、請求項1～3何れか1項に記載のバック化粧品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、バック化粧品に関し、更に詳細には除去性に優れるバック化粧品に好適なバック化粧品に関する。

【0002】

【従来の技術】 バック化粧品は、皮膚上に有効成分を含有する化粧品組成物を被膜などで閉塞し、有効成分の吸収を高める化粧品の形態であり、閉塞する手段として、高分子被膜形成剤を利用したもの、高融点ワックスのエマルジョンを利用したもの、海泥やクルクなどの鉱物と水の作る高粘度組成物を利用したもの、高分子を含有する液を利用したもの或いはアルギン酸の水不溶性及び/又は難溶性の被膜を利用したものなどが、その製剤として例示できる。これらの除去に当たっては、高分子により皮膚を形成するものでは、形成した皮膚をゆっくりと剥離し、それ以外のものについては洗い流すのが常法であった。しかしながら、従来の高分子皮膚に於いては、その強度はさほど強くなく、加えて皮膚との親和性が高いため、皮膚に残ってしまう部分が多く、最終的には洗顔などを行わざるを得ないのが現状であり、その他のものも洗顔が必須となっている。このような洗顔に於いても皮膚上に残存したバック料は、皮膚と親和性が高いため、水性洗顔でも落としにくく、使用後除去が容易なバック化粧品が求められていた。

【0003】 一方、1) アルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物と2) アルカリ土類金属の水可溶性塩を含有する、前記皮膚塗布用の組成物を硬化させる為の組成物とを構成要素とする、バック化粧品は全く知られていなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、このような状況下為されたものであり、使用後除去が容易なバック化粧品を提供することを課題とする。

【0005】

2

【課題の解決手段】 本発明者らは、このような状況に鑑みて、本発明者らは、使用後除去が容易なバック化粧品を求めて鋭意研究努力を重ねた結果、1) アルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物と2) アルカリ土類金属の水可溶性塩を含有する、前記皮膚塗布用の組成物を硬化させる為の組成物とを構成要素とする、バック化粧品にその様な作用を見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示す技術に関するものである。

(1) 1) アルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物と2) アルカリ土類金属の水可溶性塩を含有する、前記皮膚塗布用の組成物を硬化させる為の組成物とを構成要素とすることを特徴とする、バック化粧品。

(2) アルギン酸の水可溶性塩が、アルギン酸ナトリウム及び/又はアルギン酸カリウムであることを特徴とする、(1)に記載のバック化粧品。

(3) アルカリ土類金属の水可溶性塩が、塩化カルシウムであることを特徴とする、(1)又は(2)に記載のバック化粧品。

(4) 皮膚塗布用の組成物が、クリーム状、マッド状、ジェル状又は乳液状であることを特徴とする、(1)～(3)何れか1項に記載のバック化粧品。以下に、本発明について、実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【0006】

【発明の実施の形態】 (1) 本発明のバック化粧品の構成要素であるアルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物

本発明のバック化粧品は、アルギン酸の水可溶性塩を含む皮膚塗布用の組成物を必須の構成要素とする。本発明の皮膚塗布用の組成物は通常のバック化粧品を構成するものに、アルギン酸の水可溶性塩を加えた形態をとることが好ましく、この様なアルギン酸の水可溶性塩としては、ナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩、アンモニウム塩、トリエチルアミン塩、トリエタノールアミン塩等の有機アミン塩、アルギニン塩、リジン塩等の塩基性アミン塩等が好ましく例示でき、これらの内ではアルカリ金属塩が好ましく、中でもナトリウム塩が特に好ましい。かかるアルギン酸の水可溶性塩は唯1種を含有させることもできるし、2種以上を組み合わせて含有することもできる。本発明のバック化粧品に於ける、これらアルギン酸の水可溶性塩の好ましい含有量は、組成物全量に対して、総量で0.1～10重量%であり、更に好ましくは、0.5～5重量%である。これは、これらアルギン酸の水可溶性塩の含有量が少なすぎると、使用後の除去が容易にならない場合があり、多すぎると組成物が固くなり過ぎ、塗布などの特性を阻害する場合があるからである。実使用性の好ましい範囲が上記の範囲である。

【0007】 本発明の皮膚上に塗布用の組成物は、上記必須成分である、アルギン酸の水可溶性塩以外に、通常

50

BEST AVAILABLE COPY

(4)

特開2002-128636

5

6

架橋型シリコーンエマルジョン	20	重量部
(架橋型メチルポリシロキサン	1.5	重量%
デカメチルペンタシロキサン	8.5	重量%
POE(20)オレート	8	重量%
水	87	重量%
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1	重量部
カルボキシビニルポリマー	0.3	重量部
アルギン酸ナトリウム	2	重量部
キサンタンガム	0.1	重量部
メチルパラベン	0.1	重量部
水	40	重量部
POE(50)硬化ひまし油	0.1	重量部
デンブン	0.5	重量部
(ロ)		
10%水酸化カリウム水溶液	13.5	重量部
水	0.3	重量部
(硬化用の組成物1)		
水	90	重量部
塩化カルシウム	10	重量部

【0012】<実施例2>上記実施例1の皮膚塗布用の組成物1を用いて、硬化用の組成物の塩化カルシウムの含有量を変えて、実施例1と同様に評価した。結果を表1に示す。これより硬化用の組成物に於ける、アルカリ土類金属の濃度としては、1~20重量%が好ましく、更に好ましくは5~15重量%であることがわかった。

【0013】

【表1】

硬化剤	硬化剤	硬化剤	硬化剤
塩化カルシウム	1.5	1.5	1.5
塩化カルシウム	8.5	8.5	8.5
塩化カルシウム	13.5	13.5	13.5

【0014】<実施例3>実施例1の皮膚塗布用の組成物1と硬化用の組成物1を用いて、硬化用の組成物の投与方法を噴霧に変えて、実施例1と同様に検討したところ、同様に皮膚塗布用の組成物の残存は認められなかった。これより、噴霧による硬化用の組成物の投与方法も可能であることがわかった。

【0015】<実施例4>実施例1の皮膚塗布用の組成物1と硬化用の組成物1を用いて、硬化用の組成物の投与方法を不織布に硬化用の組成物を含浸させて、これを貼付する方法に変えて、実施例1と同様に検討したところ、支持体ごと皮膚塗布用の組成物が硬化して剥離し、同様に皮膚塗布用の組成物の残存は認められなかった。これより、支持体含浸による硬化用の組成物の投与方法も可能であることがわかった。又、本発明のバック化材料の構成要素として、支持体を加えることも可能であることがわかった。

【0016】<実施例5>下記に示す処方に従って、皮膚塗布用の組成物2を作製した。即ち、処方成分をニーダーで混練りし、皮膚塗布用の組成物2を得た。このものと硬化用の組成物1を用いて、実施例1と同様に除去

20 性の試験を行った。即ち、皮膚塗布用の組成物2と塗布用の組成物2のアルギン酸ナトリウムを水に置換した、通常のマッド状パックである、比較例2のパック化材料を用いて、上腕内側部に3つの部位を設け、塗布用の組成物2を2つの部位に塗布し、比較例2を残りの部位に塗布し、10分間のパック処理を行った後、皮膚塗布用の組成物を塗布した1部位には、硬化用の組成物1を刷毛で塗布し、硬化させて剥離して除去し、他の2部位は水洗により除去した。除去後、乾燥を待って、ヨウ素・ヨウドカリ溶液を塗布して、処方成分中のデンブンの残存箇所を調べた。何れのサンプルもヨウ素-デンブン反応は認められず、本発明のパック化材料に於いては、剥離により、水洗と同程度の除去が可能であることがわかった。

黄色酸化鉄	0.2	重量部
グンジョウ	0.2	重量部
二酸化チタン	2	重量部
タルク	1.9	重量部
カオリン	7.1	重量部
結晶セルロース	1.4	重量部
ベントナイト	7.1	重量部
ソルビタンセスキステアレート	0.8	重量部
POE(20)ソルビタンセスキステアレート	1.4	重量部
グリセリン	0.4	重量部
デンブン	0.5	重量部
アルギン酸ナトリウム	2	重量部
水	75	重量部

【0017】<実施例6>下記に示す処方に従って、皮膚塗布用の組成物3を作製した。即ち、処方成分をニーダーで混練りし、皮膚塗布用の組成物3を得た。このものと硬化用の組成物1を用いて、実施例1と同様に除去